

昭和39年5月1日現在における本県中学校卒業生について、教育訓練機関をどのように利用しているか、その利用状況をみると第8表のとおりである。

第8表 15～17才の青少年の教育訓練機関在籍率 (39.5.1現在)

	実数	構成比	推定方法
15才～17才人口	131,424	100.0%	年度別中学校卒業生数－県外就職者数＋流入就職者数
A 教育訓練機関在学者数	101,186	77.0	
全日制高等学校	84,203	64.1	} 学校基本調査の結果による。 } 定時制は第3学年までの生徒数を用いた。 } 通信制各種学校は年齢別生徒数によった。 } 昭和38年社会調査結果から推定した。 } その他には高校別科、社会通信教育、職業訓練機関、経営伝習農場等を含めた。
定時制通信制高校	7,512	5.7	
各種学校	4,757	3.6	
青年学級	2,837	2.2	
その他	1,877	1.4	
B 教育訓練機関に在学しない者	30,238	23.0	

15歳～17歳人口のうち、全日制高等学校在学者は64%を占め、勤労青少年とみられる36%のうち、教育訓練機関で学習の機会をもっている者は13%にすぎない。残りの23%の者は、なんらの教育訓練の機会をもっていない現状である。

急速に変ぼうする社会に適応し、今後の県勢発展に即応する人材育成の見地から、すべての青少年になんらかの教育訓練の機会がもてるよう、後期中等教育の拡充を図ることが極めて重要である。

(2) 後期中等教育の中核をなす本県高等学校の進学率についてみると、第9表のとおりである。年々上昇してきているが、昭和39年度61.6%で、全国水準70.6%にくらべ大きく下まわっている。

第9表 高等学校進学率の推移

	年	全日制			定時制				合計	中学校卒業生数	全国平均進学率
		県立	私立	計	県立	市村	町立	私立			
実数	昭35	16,770	2,876	19,646	2,938	406	-	2,644	22,290	43,633	-
	36	14,658	1,880	16,538	1,544	268	-	1,812	18,350	31,740	-
	37	18,570	3,163	21,733	1,881	247	12	2,140	23,873	42,880	-
	38	26,711	4,967	31,678	2,807	343	13	3,163	34,841	60,447	-
	39	26,932	5,051	31,983	2,760	290	13	3,064	35,047	56,860	-
進学率	昭35	38.4%	6.6%	45.0%	5.4%	0.7%	-	6.1%	51.1%	-	60.2%
	36	46.2	5.9	52.1	4.9	0.8	-	5.7	57.8	-	65.7
	37	43.3	7.4	50.7	4.4	0.6	-	5.0	55.7	-	65.2
	38	44.2	8.2	52.4	4.6	0.6	-	5.2	57.6	-	67.8
	39	47.4	8.8	56.2	4.9	0.5	-	5.4	61.6	-	70.6

また地域別の進学率は第10表のとおりで最高は会津地区の70.4%、もっとも低いのは、県南地区の54.5%で、格差は15.9%と地域間のひらきは大きい。

わが国産業の近代化・高度化は、就業者の学歴構成の高度化を求めている。産業構造の近代化をはかり、県勢の振興を図るには、県民の教育水準の向上が必要である。それには、その中核的役割をはたす高等学校教育の量的普及をはかることが当面の課題である。